

(鳥羽市温泉振興会メールマガジン)

「海女の愛ちゃん鳥羽の温泉宿にダイブ！」

「海女の愛ちゃんが湯く！」 卯月の巻

こんにちは！海女の愛ちゃんです。

今月は海藻料理と温泉のレポートからちょっと離れます。スピンオフバージョンと言ったらいいのでしょうか、海藻おしばによる温泉マーク作りをレポートしますね。鳥羽は言うまでもなく、豊かな海藻が自慢です。料理だけではなくもっと違った活用ができないかと事務局が模索していた中、全国でも珍しい海藻による温泉マークを作って鳥羽温泉郷の魅力を発信していきたい！宿を訪れたお客様が海藻の温泉マークをご覧になって、海のことを意識している温泉郷と思って頂ければ嬉しい！との思いから、海藻おしばによる温泉マーク作りをすることになったそうです。

ちょっと気になって温泉マークのことを調べてみたところ、色んな説がありました。今のなじみ深い温泉マークには秘められた意味や形があるそうです。例えば350年以上前から使われて、色々と形を変え、そして3本の線の長さが微妙に違うことなど。左がやや短く真ん中が一番長く、右が短い。これは「最初は5分くらいほどほどに入り、次は8分くらいじっくりと、そして最後に3分さっと入るのがよい」という意味が秘められているそうです。私は湯気が3本あると漠然としか考えていなかったもので、諸説勉強になりました。

さて、今回の温泉マークがこの3本線を活かしたものなのか、それともオリジナリティがある全く新しいものなのか、海藻を使ってどのようなデザインになるのが楽しみです。



今回デザインを快く引き受けてくださったのは、海藻おしば作家で海藻デザイナーの野田三千代さんです。野田さんは以前、海藻おしばのアート作品を海の博物館で展示した経緯もあり、同館の石原真伊さんから紹介して頂きました。緑色や赤色など彩りがとても鮮やかであり、花にも勝るほどの海藻ブーケの作品が印象的です。ご覧になりたい方は、同館併設の「カフェテラスあらみ」へ行ってみて下さいね。



それでは現場へダイブ！

3月末の嵐が過ぎ去った翌日、野田さん、石原さん、事務局のスタッフと浦村、石鏡、国崎へ海藻採集に繰り出しました。潮がよく引いている浜にはものすごい量の海藻が打ち上がっていました。



(↑漂着したアラメとカジメの幼体)



(↑海藻採集の様子)

ワカメやアラメ、カジメなどの海藻は根元から引きちぎられ、なかには根元に石が付いたままの海藻もありました。また大きな砂利が浜の上部へ押し上げられ、浜の地形が変わるほどの波の威力は恐ろしいと感じました。でも海藻を採集するにはグットタイミングでしたね。海へ浸からずとも、沢山の種類の海藻を拾うことができました。

そうなんです、春の海は海藻がいっぱいあります。岩礁帯の岩はびっしりと海藻に覆われ、海の中は森のようです。海藻をすみかにしている幼魚もたくさんいて、海の中はとても賑やかです。海女にとっては春の海は1年の中で一番水温が低く、海藻に絡まることもあり危険なのですが、一方では満開の桜や鶯の鳴き声を楽しむような感覚もありワクワクします。



(←まるでヒジキ畑)

私は食べられる海藻しか知らないのですが、野田さんも石原さんも本当によくご存知で、教えてもらいながら採集しました。この日は結構な時間夢中で磯を歩いていたので、油断して日焼けをしてしまった程でした（笑）。

海の博物館では採集した海藻を選別しましたので紹介します。ヒジキ、ワカメ、アカモク、フノリ、アラメ、カジメ、フシツナギ、ニセフサノリ、タマイタダキ、フクロツナギ、ヒラミル、ミルなど。やはりたくさん集まりましたね！！野田さんは、この中から鳥羽らしい海藻を使ってデザインしたいとの思いから、海女との関係性もあり、アワビ、サザエの餌になるアラメ、カジメを活かせないかと創造の翼を広げておられました。



(↑採集した海藻を選別する野田さん)(↑左からミル、フクロツナギ、オキツノリ)

野田さんからは完成までにはもう少し時間が必要とのことでした。完成後は、情報発信の素材はもちろん、鳥羽温泉郷の宿で観光客の皆さんや、宿のスタッフの方々の目に留まる場所に掲示してほしいですね。

野田さん、石原さん、海藻採集お疲れ様でした。



(左：大野愛子、中央：野田三千代さん、右：石原真伊さん)

◆野田三千代

静岡県伊豆市在住。

女子美術短期大学造形科卒 静岡県工業試験場 工芸部デザイン科を経て
筑波大学下田臨海実験センター藻類学研究補助員、長年勤務。

海藻おしば協会会長 <http://kaisou048.jp/>

海藻の色と形を生かした標本と、アート作品の制作&展示を通して
「海藻のつくる海の森」の大切さをアピール。

環境大臣特別賞(2010 年) 沼田眞賞 (2013 年) 岡村賞 (2021 年)

◆レポーター 大野愛子

東京都出身 海女、フォトグラファー

共同ひじき口が 4 月末の大潮から始まる予定です。この共同ひじき口（ひじき漁）
は石鏡町内の出会い作業として、一家に 1 人以上は必ず参加する決まりがあり、かつ
ては 2～300 人が参加する規模でした。しかし、今は 70 人ほどに減少しましたが、全
国でも珍しいひじき採取の自慢の共同作業です。

そして、月末にはいよいよ夏磯が口開けになる予定です。

◆編集後記

4 回目のメルマガを読んで頂きありがとうございました。

今回は磯歩きしながら海藻を採集したり、岩尾博士に会いに水産研究所を訪ねたり
と、大人の社会見学のような感じでした。海に入らなくてもとても楽しかったです。

温泉マークが出来上がるのと、アワビの口開けが待ち遠しいです。早くダイブした
いです！！次回は扇芳閣さんをレポートする予定です。お楽しみに～。